



2021年6月1日

各 位

三重県保険医協会

運動の取り組みについて

4月8日、WEBで「#医療費窓口負担2倍化止める」緊急アピール集会（全国保険医団体連合会、日本高齢期運動連絡会、全日本年金者組合、中央社会保障推進協議会など主催）が開催された。三重協会から鶴飼・梅村各副会長が参加した。

くしくも集会当日は、2倍化法案が国会に提出され、審議が始まる日で全国からWEB参加を含め220人の参加があった。

この法案が通れば後期高齢者のうち約25%、約370万人が影響を受ける。しかも当事者だけでなく、その家族が高齢の親に代わって窓口負担の支払いをする場合は負担増となり、決して現役世代の負担減とならない。「今までもぎりぎりの生活なのに、年金は下がり、医療費窓口負担2倍化で、生活は苦しくなるばかり」「歯科や整形の受診回数を減らすしかない」「年金額にかかわらず、均等割の年金天引きは不公平」など、うららかな晴天の国会前に参加者の怒りの声が響いた。

皆さんにご協力いただいた644筆の署名を保団連経由で中川正春衆院議員に託した。ご協力に感謝します。
(三重県保険医協会副会長・鶴飼伸)

4月22日、WEBで保団連国会行動が開催された。三重協会から鶴飼・梅村各副会長が参加した。

「第6回歯科技工問題を考える国会内集会」では全国からWEB参加を含め、300人が参加、衆・参（与野党）国会議員16人からの激励の挨拶があり、各方面からも22のメッセージを頂いた。長期に続く歯科低医療費政策のしわ寄せが特に歯科技工士・所に重くのしかかっている。技工料金が低すぎるために歯科技工士の低賃金・長時間労働、離職（20、30代の5年以内の離職率が75%）・廃業を生み出しており、歯科技工の担い手がさらに減少する可能性も指摘されている。集会では歯科技工料金をはじめとする歯科技工問題の改善を求める現場の悲痛な声が飛び交った。「#医療費窓口負担2倍化止める署名提出集会」ではWEB参加を含め、250人が参加、国会議員8人の挨拶があった。保団連の調査でも治療中断の原因の一つに経済的理由が挙げられたのだが、消費税増税、コロナ禍もあって受診抑制も進行しており、医科では糖尿病、認知症等の慢性疾患、歯科では歯周病の悪化等が懸念される。集会では当事者、医療現場から法案の撤回を求める声が相次いだ。当日は12万9913筆の署名提出、合計100万3697筆になったが、まだまだ手綱を緩めることはできない。二つの集会終了後には「歯科技工問題についての厚労省要請」に参加した。「保険で良い歯科医療を」全国連絡会が主催となり、コロナ禍でこれまでに実施されてきた医療機関等における感染防止対策の支援対象に含まれていなかった歯科技工所を医療機関と同様に感染防止対策支援策の対象となる位置づけを求めることや、歯科技工問題の改善を求める厚労省要求を行った。厚労省からの回答は言語明瞭意味不明瞭であり、いつもは温厚な保団連宇佐美副会長はじめ参加者からはきつい口調で質疑が出された。なお、集会に先立って、吉田統彦議員（衆比例東海・立憲民主党）と懇談を行い、歯科技工問題、法案撤回、コロナ関連に関する要請をした。

(三重県保険医協会副会長・梅村忠司)

以 上